

都道府県名

宮 城 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	三本木町立三本木小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	4	16	24
児童数	68	61	66	68	79	76	6	424	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力をもち、自ら学び自ら考える児童の育成
 - 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1～6年生・算数
 （子どもの理解度に差が出やすい教科であると共に、系統性が必要な教科であるため）
- ・ 1～6年生・国語
 （これまでの研究成果と児童に対する実態調査の結果から実施教科の枠を広げ、研究に取り組むため）
- ・ 1年生・音楽，国語：3年生・音楽，体育：4年生・理科，社会
 5年生・理科，社会：6年生・理科，社会，家庭，図工
 （教員の得意分野を生かした教科担任制として実践を進めるため）

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 児童一人一人の確かな学力の向上をめざして</p> <p>仮説 児童の願いや実態に応じた指導方法・指導体制の工夫改善を行うことにより、児童一人一人の確かな学力を向上させることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 算数科における IT 指導・少人数指導による指導体制の工夫改善 (2) 教科担任制による指導体制の工夫改善 (3) 確かな学力を向上させるための指導方法の工夫改善 (4) 一人一人のよさや可能性を伸ばし、指導に生かす評価の工夫 (5) 個に応じた指導を行うための教材教具の開発 (6) 「学び」を促す学習環境づくり
--------	---

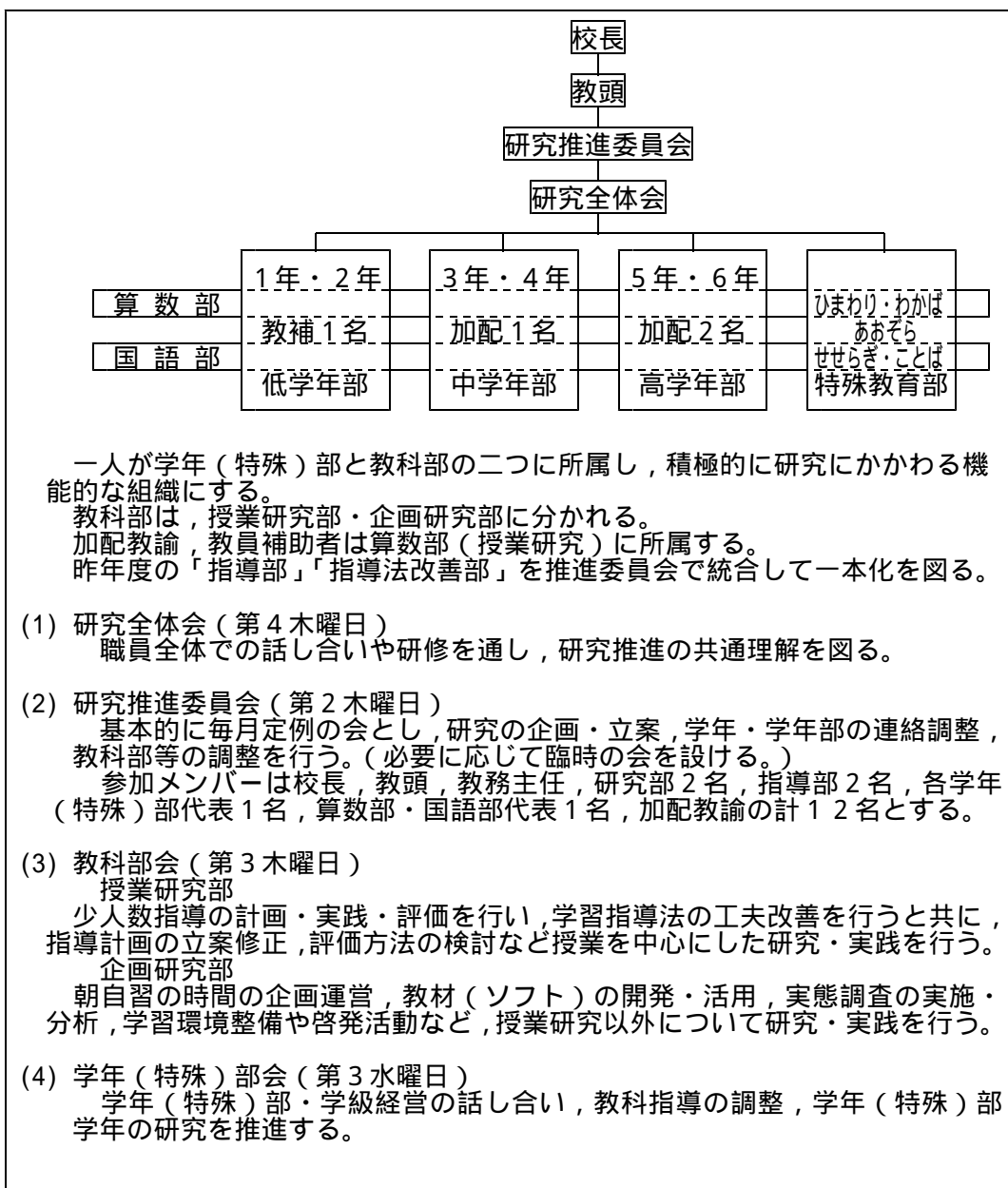
平成15年度	<p>テーマ 確かな学力をもち、自ら学び自ら考える児童の育成</p> <p>仮説 児童の願いや実態に応じた指導方法・指導体制の工夫改善を行うことにより、確かな学力をもち、自ら学び自ら考える児童を育成することができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 個に応じた指導を行うための算数科，国語科における指導方法・指導体制の工夫 (2) 個々の学びに対応し、一人一人の実態に応じたコンピュータ活用の工夫 (3) 一人一人のよさや可能性を伸ばし、指導に生かす評価の工夫
--------	--

* 変更理由

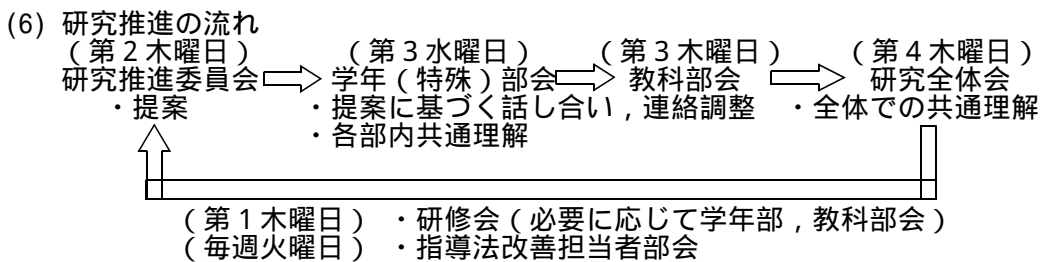
- ・ 研究を通して目指す児童の姿が主題からも分かるようにしたため。
- ・ 研究教科を広げたことにより、研究内容を焦点化したため。

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力をもち、自ら学び自ら考える児童の育成</p> <p>仮説 児童の願いや実態に応じた指導方法・指導体制の工夫改善を行うことにより、確かな学力をもち、自ら学び自ら考える児童を育成することができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導を行うための算数科、国語科における指導方法・指導体制の工夫</p> <p>(2) 個々の学びに対応し、一人一人の実態に応じたコンピュータ活用の工夫</p> <p>(3) 一人一人のよさや可能性を伸ばし、指導に生かす評価の工夫</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



(5) 指導法改善担当者部会（毎週火曜日）
 基本的に毎週定例の会とし、指導法改善に関わる連絡調整・工夫改善を行う。（参加メンバーは、校長，教頭，教務主任，研究主任，指導部主任，加配，教員補助者）

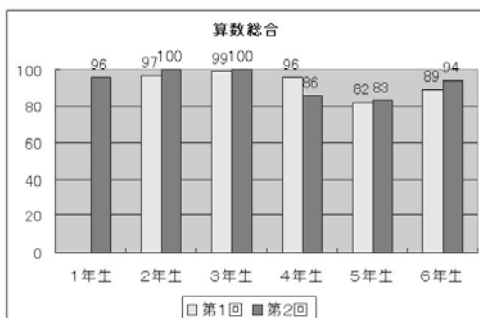


平成15年度の研究成果及び今後の課題

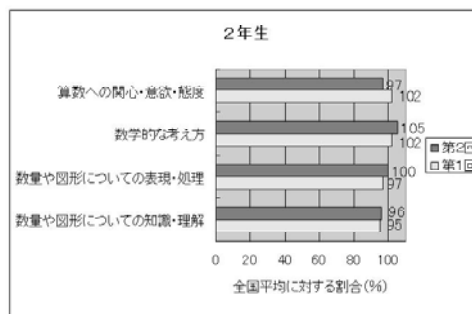
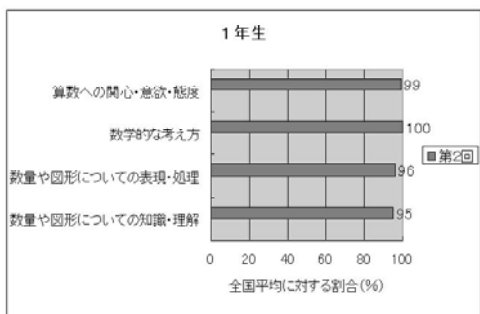
1. 研究成果

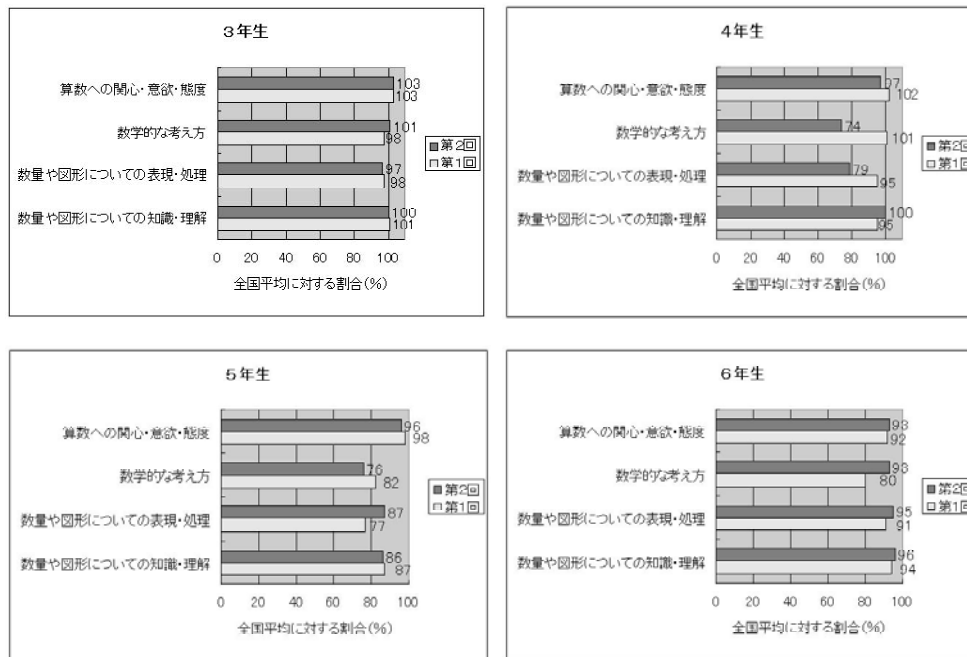
- ・ 全学年の算数科において少人数指導やTT指導など、多様な指導方法・指導体制を取り入れることにより、個に応じたきめ細かな学習形態の展開が可能になった。
- ・ 教科担任制で教師の得意分野を生かした指導体制で指導を行うことにより、多くの児童に対して専門的でわかりやすく楽しい学習を提供できるようになった。
- ・ 児童の学習進度や学習内容の難易度に応じてコンピュータを活用し発展的・補足的な学習に役立てたことにより、個に応じた教材を提示することができ、指導の効率化にも役立った。
- ・ 算数科で毎時間自己評価カード（あしあとカード）を使用すると共に、児童の自己選択によるコース選択を継続的に行うことにより、児童の自己評価に客観性が加味され、自分に合ったコース選択ができる力が育ちつつある。
- ・ 学力テストの結果、全体的に向上がみられ、学習内容の確実な定着を図ることができた。
- ・ アンケート結果から、学習に意欲をもち、主体的に学習に取り組む児童が多くなった。

【第1・2回学力テストの結果（算数科）】



* 第3回学力テスト結果については、2月下旬に業者から届く結果を今後集計，分析していく予定。





2. 今後の課題

- ・ 今後も引き続き指導方法の工夫改善を継続し，個に応じた指導のための授業改善を行う必要がある。
- ・ 「発展的な学習」「補充的な学習」をより一層取り入れた学習展開が必要である。
- ・ 今年度は少人数での教科担任制の試みも行ったが，限られた教員数での教科担任制の実施は逆に多忙になり，時間確保に困難が生じることから，さらに工夫改善が必要である。
- ・ 非常勤加配との打ち合わせ時間の確保や教材研究のための時間をできるだけ保障する必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

- 1 調査の目的

児童の実態をより多く多面的に把握して指導の指針にすると共に，また，児童や保護者，教師の願いを生かした実践を進めるために実態把握を継続して行う。

さらに，児童の学力の変容を客観的に捉え，研究と指導の評価を行うために学力テストを実施する。
- 2 調査の内容
 - (1) 学力検査等の実施

検査名	：	教研式標準学力検査CRT（図書文化）
学年・教科	：	1年，2年・（国語，算数）
		3年，4年・（国語，算数，理科）
		5年，6年・（国語，算数，理科，社会）
 - (2) その他

全児童，保護者，教師に対するアンケートの実施
 コンピュータのサーバーに蓄積した児童一人一人のデータの分析
 児童の自己評価カードの累積と分析

3 調査時期

		事前	第1回	第2回	第3回	第4回
学力テスト			H14.5	H15.1	H15.12	H16.12
アンケート	児童	H14.5	H14.6	H14.12	H15.12	H16.12
	保護者		H14.7	H14.12	H15.12	H16.12
	教師		H14.6	H14.12	H15.12	H16.12

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 研究会・説明会等（含 フロンティアティーチャーとしての研究成果普及）

- 5月 2日（金）「古川管内教育研究会志田支会総会での研究概要説明」
会場：鹿島台中学校，対象：志田郡内小中学校教職員
- 5月13日（火）「古川管内研究主任者会での研究概要説明」
会場：古川合同庁舎，対象：古川管内小中学校研究主任
- 7月15日（火）「古川地区学力向上推進協議会で説明」
会場：古川合同庁舎，対象：古川地区学力向上推進委員
- 7月29日（火）「小学校算数科・国語科研修会での研究概要説明」
会場：宮城県研修センター，対象：研修会参加者
- 8月29日（金）「西東京市立芝久保小学校への研究概要説明」
会場：三本木小学校，対象：芝久保小学校研究主任
- 11月12日（水）「公開研究会（中間発表会）での参観授業，研究概要説明」
会場：三本木小学校，対象：希望参加者・保護者
- 12月11日（木）「古川地区学力向上推進協議会で説明」
会場：古川合同庁舎，対象：古川地区学力向上推進委員
- 12月 「古川管内教育研究会広報誌への掲載」
紙面発表，対象：古川管内小中学校教職員
- 12月 「古川管内教育研究会志田支会広報誌への掲載」
紙面発表，対象：志田郡内小中学校教職員

2 研究成果普及のためのHP作成

昨年度より公開中，随時更新（<http://sanbon-e.myswan.ne.jp/>）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無